福祉つるみ

第26号　　平成8年9月1日発行

編集・発行　社会福祉法人
横浜市鶴見区社会福祉協議会
鶴見区福祉の風土づくり
推進委員会
鶴見区役所内
TEL.510-1795

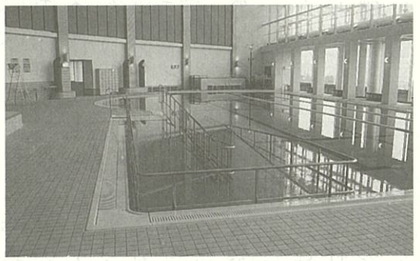
印　刷　朝日オフセット印刷株式会社

題字：石田菊雄氏

本紙は自治会・町内会のご協力で全世帯に配布しています。

ウォーターフロントの新名所「ふれーゆ」誕生

高齢者保養研修施設と鶴見区障害児者団体連合会コーナー



梅雨もまだ明けきらない7月10日、鶴見のウォーターフロントに新名所が誕生しました。横浜市高齢者保養研修施設「ふれーゆ」これは公募により、決定した名称で「ふれあいと温かさと湯」をイメージしています。環境事業局鶴見工場の余熱を利用した温水プール（25mプール・流れるプールなど）・大浴場（打たせ湯・低温サウナなど）・展示温室などからなる、子供から高齢者まで楽しめる施設です。

「障害児者・高齢者にやさしい心配り」

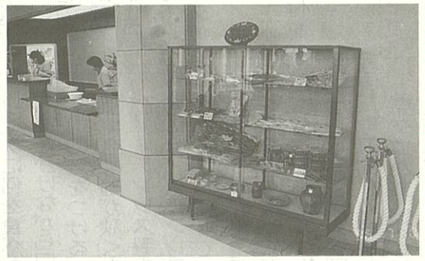
「ふれーゆ」はより多くの人に楽しんでいただくため、様々な工夫がなされています。

建物は3階建てで、入口から各フロア内部まで、ほとんど段差のない構造になっており、車椅子の方や足の不自由な方でも安全に移動できるようになっています。また、更衣室など一般に利用される場所については極力ドアを設けず、スムーズな移動ができるよう考慮されています。

25mプールには、スロープが設置され、手すりを伝い緩やかな斜面を下りることでプールに入ることができます。

また、これまでは例えば車椅子を使っている女性がプールなどを利用する際に、男性の家族の方の手伝いが必要であっても、一緒に更衣室に入ることができず、不便なことがありました。「ふれーゆ」は車椅子の方のための更衣室を個室としてご用意することで、このような場合であっても遠慮なくご利用いただけるようになっております。この更衣室は車椅子からシャワーまで高さを変えずに移動できるよう、45cmの段差を設けています。このように「ふれーゆ」は「誰にでもやさしい街、鶴見」にふさわしい「バリアフリー（＊）」な構造になっています。

おみやげ・記念品に最適、区内の障害者作品を展示した障団連コーナー



「ふれーゆ」の一階、受付カウンターの傍らに、手作りのコーヒーカップやポーチやエプロン、クッキーや石鹸が展示されているガラスケースがあります。ここは、障害団体連合会コーナーとして、鶴見区内で身体的・精神的に様々なハンディキャップを持ちながら、作業所に集まって働いている方々の製品を展示販売しているコーナーです。「ふれーゆ」での思い出のため、ちょっと可愛い小物を買うことができます。

また、30個以上で注文販売に応じますので、パーティや落成式等の記念品・おみやげに是非、ご利用ください。

なお、「障団連コーナー」グッズは本町通四丁目潮田交流プラザ1階のお洒落な喫茶店ふれあいショップ「PORT」や、区役所や区内作業所で行われるバザーでも、販売しておりますので、お立寄りの際は是非一度ごらんください。

「ふれーゆ」について

所在地　末広町1－15－2
交通　JR鶴見駅東口から川崎鶴見臨港バス
鶴08系統・終点下車徒歩1分
電話　045（521）1010

「障団連コーナー」について

問い合わせ先　鶴見区障害児者団体連合会
電話　045（574）1069　小林

＊バリアフリー（barrier＝障壁・妨げ・free＝ないこと）とは＝障害者や高齢者が生活する上で妨げとなるような障壁がない状態。段差や、通り抜けにくい狭い入口、階段などが障壁とされる。誰もが同じように社会参加していくための条件とされる。今後のまちづくりにはバリアフリーであることがますます必要となってくる。

開館時間　4月～9月　9時～21時
10月～3月　10時～20時
休館日　年末年始
（12／30～1／6）施設点検日

承認鶴見区第13号

『福祉つるみ』には昭和60年の第1号発行から参加させていただきました。区内の福祉活動を区民の皆さんにどうお伝えするか、慣れない作業に戸惑いつつも胸踊らせて作った第1号は、本当に感激でした。

私は常々、『福祉つるみ』を通し、青少年や乳幼児期の家庭教育等の問題を伝えていきたいと思っていました。ただ、紙面では身近に差し迫っている老人や障害児・者の問題がとり上げられることが多かったのですが、私自身漠然と知っているつもりだった区の福祉の状況について、多くのことを学ばせていただきました。関係者のみなさんに心から感謝いたします。

今後も、区民の皆様のご理解とご協力のもと、『福祉つるみ』のさらなるご発展をお祈りいたします。

総持寺保育園園長　米山　マツ

昭和60年3月『福祉つるみ』の創刊号発行から編集委員を委嘱され、以来11年余りにわたり編集に携わってきました。この間、委員長はじめ各委員に支えられてどうにか勤めることができました。ありがとうございました。このたび鶴見中央地区の秋山会長さんにバトンタッチすることになりました。

すべての人が共に生きる社会づくりを目標に各地域での福祉の情報を的確に取り上げ、そして福祉の指針としてこれからも更に充実した『福祉つるみ』であることを願ってやみません。

下末吉地区自治連合会会長　横山　正志

鶴見区社会福祉協議会の事務所が移転しました。

社会福祉法人横浜市鶴見区社会福祉協議会（略称：区社協）は、地域のお年寄りや障害をもつ人や子どもたちが誰もが安心して暮らせる「福祉のまちづくり」を目指し、区民が主体となって行政と協力して地域福祉を推進してきました。この度民間福祉団体として、業務のより一層の充実強化を図るために、5月7日に鶴見区役所3階から鶴見会館1階へ移転しました。

【移転先】
鶴見区鶴見中央3－19－11鶴見会館1階
電話（504）5619

社会福祉法人
横浜市鶴見区社会福祉協議会
会長　石田　菊雄

あすも

（区社協事業紹介Part3／高齢者福祉事業－介護者のリフレッシュ事業）

区社協では、高齢者福祉事業として、平成3年度よりねたきり高齢者・痴呆性高齢者の介護者のリフレッシュ事業を行っています。

これは、介護をされている方の日頃の精神的・身体的労苦をねぎらいゆっくりと寛いでいただくための日帰りバス旅行です。毎回45名程度（バス1台）の方が参加され、介護の方法や日頃の悩みなど様々なことを保健婦と相談したり介護者どうしで話し合ったりします。また、午後からはカラオケやお風呂に入ったりして楽しいひとときを過ごします。鶴見に到着する頃は、友達となり、住所交換をしておつきあいの輪が広がっています。

善意の寄付をありがとうございました。

平成8年1月1日～6月28日
（　）内は寄付回数です。

金銭をお寄せいただいた方々

三浦洋子様⑥　章栄はだたち　X、masチャリティコンサート参加者一同様
添田千恵子様　越智史人様③
野ばら会様　旭硝子労働組合京浜支部様
旭硝子労働組合京浜支部様　長谷川建太郎様②
鶴見区文化協会様　米山　マツ様⑤
石川トキ様③　五神　亀子様③
横山　健一様　イケダ自動車様
工藤喜之祐様⑤　第一生命労働組合営業職支部様
第一生命労働組合営業職支部東京労働組合青年部一同様　斉藤吉宏子様
やよい会様②　長谷川　要様
岩堀　敏恵様　竹村　タカ様③
静和会様　中川　きよの様②
リック機の下様　竹田　富美様③
ニュートルミゴルフ練習場様　コーヒートークと宮一同様
環境ワンダーランド様　国際ソロプチミスト横浜東様
金井　フジヨ様　南山　類子様
吉沢　俊子様②　鶴見区民謡愛好会様
日本食糧協会横浜東支部様　横浜鶴見ライオネスクラブ様③
鷹谷　勇様　昼間松三郎様
石川トキ様　戸井田喜治様
荻島　克子様　崎原　チエ様
潮田　敬子様　原　辰徳様
鶴見リサイクル運動の会様　小野芳太郎様
貴田　米吉様　横浜市寺尾地区センター様
服部　貴様　フレンドリー軟遊会様
服部　和子様
西脇　和子様
横浜鶴見西ライオンズクラブ様
鶴見地区ボーイスカウト連絡会様
TSURUMIふれあい祭実行委員会様
新日本自動車学校様
日産サニー神奈川販売㈱鶴見営業所様

物品をお寄せいただいた方々

関口　典子様　比企　良雄様
鶴見倉庫株式会社様　日産自動車横浜工場様
関口　敬子様　関口　静治様
成鳴信徳様　鶴見中央地区社会福祉協議会様
北寿会様　鶴見連絡業組合様
生麦地区センター様　キープラザダンスサークル様
中村　けい様　鶴田　久子様
服部　顕様　横浜鶴見ライオネスクラブ様③
鴨川宇一郎様　環境保全局総務課様　三橋　広美様
林　康民様⑥　モービル石油㈱様
パチンコ吉兆グループ様②　手話サークルあいうえお様③
矢向地区社会福祉協議会様　むぎの会様
山崎　秀様　たちばな文具店様
杉本　孝雄様　静会様②
大塚　貞夫様　竹田　富美様
赤田義治様　松元　貞子様
安斉立様②　東京ガス労働組合鶴見支部様
坂巻　正治様　Neptune様
市場第二地区様　エツン石油㈱様
井上　待子様　福田　裕一様
根本恵理子様　渋倉　マス様
小宮製作所様　あけぼの共同保育所様
島方　武様

ご連絡ください

鶴見区社会福祉協議会が年末に実施している『年末たすけあい募金激励金配分』について対象者の調査をしています。次に該当する方は、下記まで障害者手帳・愛の手帳を持参のうえ、直接届け出てください。

対象者　①特別児童扶養手当を受給されている方で、日中の大半を寝たきりで過ごす知的障害と身体障害（1級）とが重複する状態にある最重度の20歳未満の児童を介護している方。②在宅障害者手当を受給されている方で、同じく20歳以上65歳未満の方を介護している方。

届け出期間　9月2日～9月30日

社会福祉法人
横浜市鶴見区社会福祉協議会
鶴見区鶴見中央3－19－11鶴見会館1階
電話（504）5619

種別	単位		個人団体	使用料 高齢者	大人	子供
プール	1人2時間		個人	500円	800円	300円
			団体	400円	700円	200円
大浴場	1人1回		個人	500円	800円	300円
			団体	400円	700円	200円
プール及び大浴場	1人	プール2時間 大浴場1回	個人団体	800円	1400円	400円
プールの更衣室用ロッカー	1回大型200円　小型100円					
駐車場	最初の2時間、1時間につき200円 （プール、浴場使用者は1時間100円） 2時間を超えた時間　30分につき100円					

超過料金／使用者が、2時間を超えてプールを使用する場合の使用料は、2時間を超える使用30分につき高齢者130円 大人200円 子供80円

障害者料金は介護を要する障害児者の介護人1名について無料　障害者は高齢者と同額料金　障害児は子供の半額料金　150円

障害者の区分＝身体障害者手帳の交付を受けた者
精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者

〈教え合い、支え合い、励まし合う市場地区介護者の集い〉

さる7月3日、市場西中町の西仲町会館において「市場地区介護者の集い」が開かれました。この集いは寝たきりや痴呆の高齢者を自宅で介護している方々の情報交換の場であり、お互いに励ましり支え合うことを目的としています。昨年から2ヶ月に1回開かれており、今回で6回目、参加者は14名でした。ところが開会予定時刻を過ぎてもなかなか参加者がそろわず、開会が少し遅れました。おそらく会に出席するための時間を作るのが大変だったり、ひとりきりで留守番をしてもらうのが不安でなかなか家を出ることができなかったのでしょう。特に一人で介護している方は、ちょっと外出することさえも難しいのかもしれません。

今回は鶴見保健所の管理栄養士の乗田博子さんを講師に迎えて、お年寄の献立の工夫や調理の仕方についてのお話を聞きました。乗田さんは、まず歯の大切さと噛むことの大事さについて説明しました。「病人やお年寄だからといって柔らかい物ばかりを食べさせるのではなく、なるべく自分で噛むような献立を出してあげるように。」

食べる意欲を持たせるような工夫の具体例。(1)茶碗いっぱいに御飯をよそうのではなく小さめの茶碗に少しづつよそったり、ときどき茶碗を変えてみる。少しだけでも一杯分を食べることができると、「征服感」のようなものを得て「まだ食べられるんだ」という気になる。(2)自分のことはできるだけ本人にやってもらう。よだれ掛けではなく、汚れても構わない服装で起きて食べさせる。とにかく自分で食べることが大事。ひと口で食べられる大きさのおにぎりは効果あり。(3)こぼしたり手を汚してもすぐに拭いてあげないで、自分で拭いてもらう。(4)もし、食べさせる場合には、本人の目線に気を配り、次に何を食べたがっているのか察して声をかけながら口に運ぶ。

他に気をつける点は、(1)スプーンを使う場合は幅が狭く丸みが少ないものを選び、ステンレス製のものを冬場に使うときには、ステンレスの冷たさが歯にしみないように温めてから出す。(2)なるべく水分を十分に摂ってもらう。トイレが近くなるのを嫌って水分を飲まない人がいるが、トイレのための立ったり座ったりする行為も良い運動。

乗田さんの講演が終わると参加者の意見交換がおこなわれました。「便秘時の食事はどうすればいいのか」「飴の代わりにしゃぶるのに適したものはないか」などの質問に、乗田さんや保健婦さんたちがアドバイスしてくださいました。

今回初めて参加された方のひとりは、「とても参考になった。参加してよかった。」と言って満足した面持ちで帰っていきました。

この集いは、介護者を含めた3人の世話人が中心となって運営されています。「案内状などの事務作業が慣れていないせいで大変です。世話人の人数が少ないのでもっと増えて欲しいし、介護者OBやボランティアの力も借りたいです。企画のアイデアがなかなか浮かばないので苦労しますが、みなさんの期待にこたえたいですね。」

乗田さんの話に熱心に耳を傾ける参加者の真剣な顔が印象に残りました。次回の「市場地区介護者の集い」は9月に平安町で開かれる予定です。お問合わせ・ご質問は、鶴見区役所保健所保健課指導係（☎510－1837）までどうぞ。

〈友愛活動推進員を知っていますか。〉



高齢者は長年にわたって蓄積した知識や経験という貴重な財産を持っています。活力ある地域社会をつくってゆくために、この財産を埋もれさせずに活用してもらえるような場として、あるいは高齢者の社会参加のきっかけのひとつとして、高齢者どうしの交流や声かけなどを行っているのが友愛活動推進員です。鶴見区では17チーム、238名が横浜市長から委嘱され、それぞれが地域の特性に応じた活動を精力的に展開しています。

今回はその中から、生麦第二地区推進チーム（澤野豪男代表）の活動を紹介します。さる6月18日、岸谷公園児童会館において「一人暮らし高齢者の懇談会」が催されました。主催は友愛活動推進員の生麦第二推進チーム、共催は生麦第二地区連合会です。

初めに、澤野代表から開会のあいさつがありました。「今回の集まりは一度だけで終わるものではなく、今後この会をきっかけにお年寄りどうしが連絡を取り合い、つながりを持つことで毎日を楽しく過ごせるようになって欲しい。一人暮しだからといって、家の中に閉じこもってばかりいないで、お互いに知り合いになって話しができるような仲になってください。」

来賓からのあいさつに続いて、鶴見保健所の保健婦による高齢者の健康づくりについての講演です。みんなで「健康ジャンケン」を楽しんだり、歩くことと噛むことの大切さについてのお話を聞きました。

次に、ビデオ上映があり、「悪徳商法」と「高齢者の交通安全」という参加者にとって身近なテーマの2本のビデオを観賞しました。

最後は、鶴見区社会福祉協議会からの助成による会食会です。のり巻といなり寿司のお弁当と、紫陽花を形どった和菓子をみんなでいただきました。この日はあいにくの雨でしたが、この紫陽花のお菓子を食べるのにはぴったりだったかもしれません。

参加された方からは、「生麦第二地区の会食会はもう5、6年やっています。一人暮らしの高齢者の人数は増えています。町会ごとの連携が必要となっているので、これからは連合単位だけはでなく、町内会や自治会単位での活動もできたらなと考えています。ひとり暮らしのお年寄りが増えている以上もっとお金がいるのですが、助成金だけでは……」との厳しい意見や、「ここ何年か参加していますが。一人暮しなので地域の人たちと話ができるのは楽しい。」との感想をいただきました。

地域でのこうした高齢者相互の活動がもっと活発になり、また今年から新しい事業として、民生委員・友愛活動推進員・保健指導員の三者による高齢者定期訪問事業が始まることにより、高齢者の参加しやすい地域社会がつくられていくことになるでしょう。

〈創立20周年を迎えた「キビタスの会」〉



6月24日、パールホテルにおいてキビタスの会（会長　簡照子）の創立20周年記念総会・祝宴が開かれました。

キビタスの会は昭和51年に、みんなで考え、話し合いながら地域社会に「福祉の心を広げていこう」という人たちが、自主的に活動を始めたボランティア・グループです。

ボランティア活動研修に参加したり、講演会を開いて福祉の心を学びながら、障害者自身の自立の道を開く手助けをしたり、鶴見区で最初に高齢者食事サービスに取り組むなど、20年間常に先駆的な活動を展開し、昨年はその功績で厚生大臣表彰も受けました。

総会では、20年を期に初心に帰り、ボランティアの意義を問い直しながら、高齢者も障害のある方も、共に生き生きと暮らせる地域社会を築くための活動を進めることを確認しあっていました。

引き続いての祝宴で、簡会長が「現在は地域福祉の時代になりましたが、ボランティア活動が理解されなかった時代、政治や宗教に利用するのではないかという憶測や誤解もありました。そんな中で、鶴見図書館、さざんか学園、駒岡作業所、やまゆりホーム、生麦ふれあいの家、寺尾センター、などの設置運動を起こし、エンゼルの会、鶴見懇話会、鶴見区文化協会、神奈川県ともしび製品展示コーナー奉仕員協議会などの設立にかかわってきました。

この間、多くの方々のご理解とご支援、そして家族の理解と愛情、会員同士の友情に支えられました。今後も正しいものを見据えた活動を続けて参りますので、温かいご支援・ご指導をお願いします。」

藏屋時也鶴見区長、酒井喜和横浜市在宅障害者援護協会理事長から、その功績を称える祝辞や益々の発展を祈念する言葉が送られた後、石田菊雄鶴見区社会福祉協議会会長の乾杯の音頭で祝杯をあげ、20年の活動を記録して出版された『あゆみ』を広げ、参加者達は、福祉の心について語り合っていました。

サルビア

今号より編集委員が2名交替しました。新旧それぞれの委員より挨拶させていただきます。

とまどいがあったのですが、『福祉つるみ』の編集委員をお受けすることにしました。すでに古稀を越え高齢社会の一員として、今自分がいるのだということを、改めて確かに認識することが、これからの私の生活にとって必要だと思ったからです。

私は老いの輝きという言葉が好きで、一つの道標として歩んできましたが、少子高齢社会を迎え、今までより更にこまやかな福祉を考えてお手伝いができればと思っています。

鶴見区中央地区自治連合会会長
秋山　一郎

潮田地域ケアプラザ勤務の命を受けて、初めて本町通商店街を通ったとき、すれ違う人を障害物とだけ感じているような横浜駅西口と異なり、何かホッとした気持ちを感じました。今はもう死語になりつつある人情という言葉がとてもよく似合いそうに感じたのです。今、ケアプラザが様々な事業に取り組んでいけるのは、こうした地元の心をいただけるお陰です。私たちも、この町に溶け込んで精一杯の仕事をしたいと考えています。

潮田地域ケアプラザ所長
荒川　修